

第10回 中部地方水供給リスク管理検討会 (R3.10.14開催) 議事要旨

議事(1) 前回(第9回)の議事要旨

第9回検討会(R3.5.7開催)の議事要旨を紹介した。

議事(2) 木曾川水系の検討

● リスク要因の規模(外力:過去想定最大渇水、気候変動、少積雪)の検討

木曾川水系のリスク要因の規模(過去実績、気候変動)について検討した。

〈意見等〉

- 外力をどのように考えるのか、どう利用して考えていくのか、筋道を明確にしてほしい。
- 現在の気候下での降雨がなかった場合の外力の想定のみだと、気候変動のシナリオに応じた計算から外力を想定する2つの方法をどのようにくみあわせて、理解をするのかがわかりにくい。
- 渇水時の取水は、最大取水量に対して節水率をかけるのか、自発的に取水できない量が実際どのような変化をしているのか、計算方法などの仕組みは明らかになりつつあるが、実際の取水状況などとの関連を丁寧にみるべきではないか。
- 現在気候の外力として、H6 渇水の降雨なしを一番厳しい状況とするのは良いと思う。
- 気候変動を踏まえたサンプルで「MP_m101_No89」について、4~6月に雨が少ないため、対象外としているが、融雪がなくなるとを想定すると、かんがい期のはじめに降雨が少ないパターンも想定したほうがよいのではないか。
- 気候変動のサンプルについて、どのくらい雨が降ったらダム貯水位が回復するのか、今後、そのボリュームがわかるとよい。
- 現在の世界で想定していない、2℃上昇の世界で初めて起こる危機的なこと、4℃上昇の世界で初めて起こる危機的なことと、というようなもの見方で対応を考えておくべきではないか。双方に対して、どのようなものが、現在には無いが新たに危機管理の対象として出てくるのか、明確化したほうがよい。
- 少積雪について、温度上昇の影響から想定しているのはうまく整理されているが、冬型の気圧配置の変化により雪そのものが降らない場合も今後想定されるため、気圧配置について確認したほうがよい。

- 雨が雪になる、雪が雨になるというだけでなく、河川への流出量としてどのように現れるかということについて、丁寧な説明が必要である。また、温暖化した場合、降った雨が積雪しないでそのまま流れた場合はリスクなのか、ベネフィットなのかという検討が必要ではないか。
- 研究として進められている内容と実務的にどこまでとりいれられているのか、整理する必要がある。
- 水収支としては変化がない場合でも、雪の減少により産業への影響は起こり得る。また、水の利用量が伸びない可能性がある。
- 地震動であればレベル1が比較的高頻度、レベル2が低頻度で強大な外力となる。あえてそういう言葉に置き換えて、現時点、2℃上昇での比較も必要である。
- 4℃上昇・100年後のを中心に関心して議論していたが、もう少し近い未来のことを考えないと生活実感として湧きにくい。社会の皆さんに警鐘を鳴らすという見直しを含めて、手前の段階をシミュレーションしたほうが、みなさんが理解しやすい提示の仕方を検討するうえでよいのではないか。
- 検討会の最終的なゴールは、利用者への具体的な影響を示すことが目標と理解している。最大限のリスクを把握することは重要だが、発現するまで非常に長い期間を想定しているので、それまでの段階ではどうするのかということを利用者に周知していくことは重要なことである。
- 木曾川連絡導水路について、完成した場合の影響を検討に含めなくてよいのか。
- 外力の想定については、これまで大枠で丁寧に説明されていたため、具体的な話の中で、丁寧に説明してほしい。
- 段階的な危機管理については、これから施策を考えていくうえで重要なことである。
- 渇水の問題について、各関係者、自治体がどのような関心をもっているのか、どのようなプロジェクトを持っているのか、次回以降の提示を期待している。
- 気候変動の外力について、何をもちいてL1・L2とするのか、2℃上昇、4℃上昇とするのかという整理と、計画論ではどうするのか、正常流量、不特定容量はどのように扱っていくのかといったことについて丁寧に議論したほうがよい。
- 4℃上昇下において、渇水の規模、パターンはそれほど変わらずに、頻度が変わるのが温度上昇の効果ではないか。極端に減少した事象も生じているので、そのあたりを分析したほうがよい。
- 治水対策として事前放流が当たり前になりつつある。流域全体で事前放流に取り組ん

だ場合、空振りしたときの影響が発生する可能性があるため、事前放流に関する影響について評価・検討しておくべきではないか。

- **その他**

他地域での湧水について、ご紹介した。

- **〈意見等〉**

- 集中豪雨や地震は突発的に発生するため、力を入れて対策を行っているが、湧水が発生した場合には段階的に進行していくため、ある程度の準備が可能であり、生産地の振り替えや調整などで対応でき、後手に回っていると考えられる。しかし、全国で発生すると対応できなくなるため、これから経済会でも取り組んでいくようにするために、全国で同時に湧水が発生するような事態が起きるのか確認したい。